

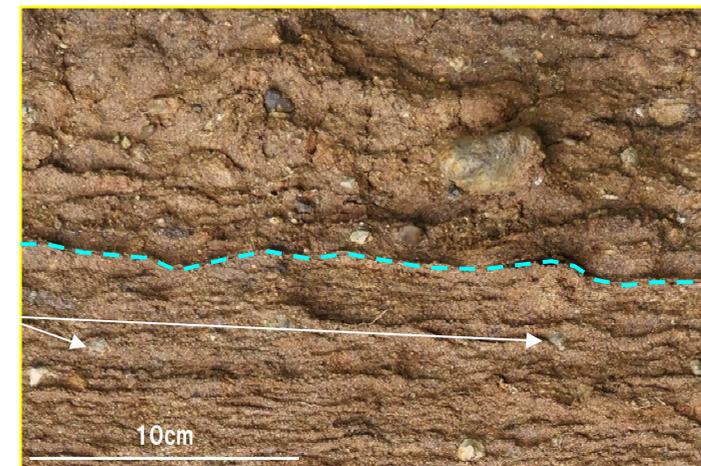
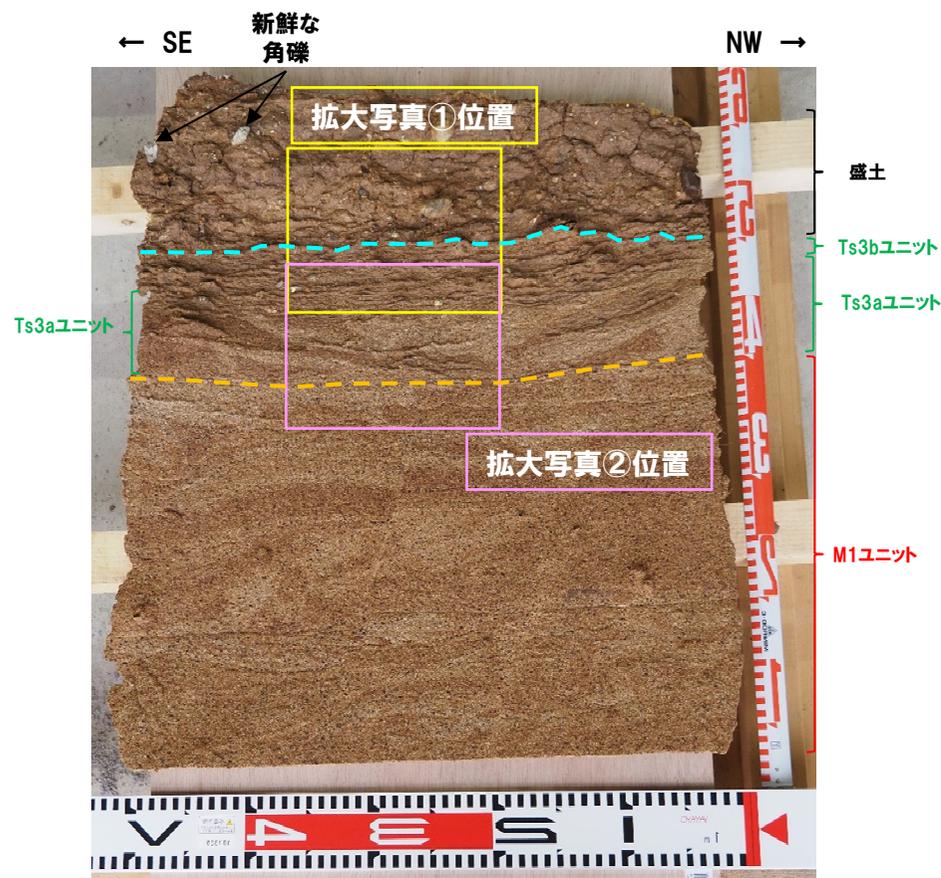
余白

## (1)地層区分及びユニット区分

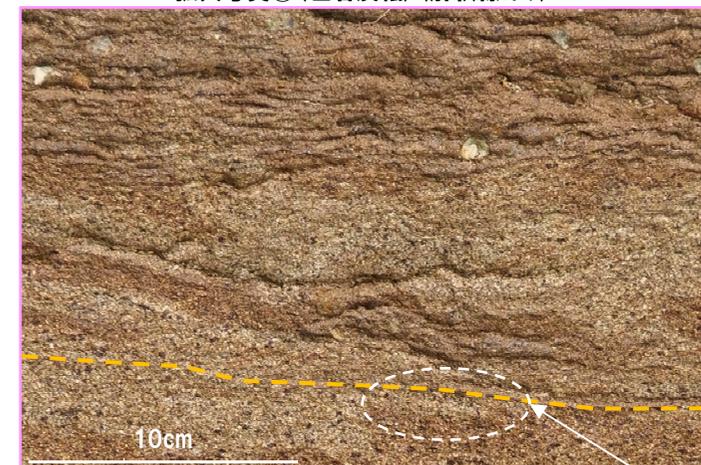
## ②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料②(2/3)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また、基底面は下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- Ts3bユニットは、褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が混じる。
- 盛土は、暗褐灰色を呈する礫混じり砂で、新鮮な角礫が混じり、不均質な層相を示す。



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

葉理を侵食している

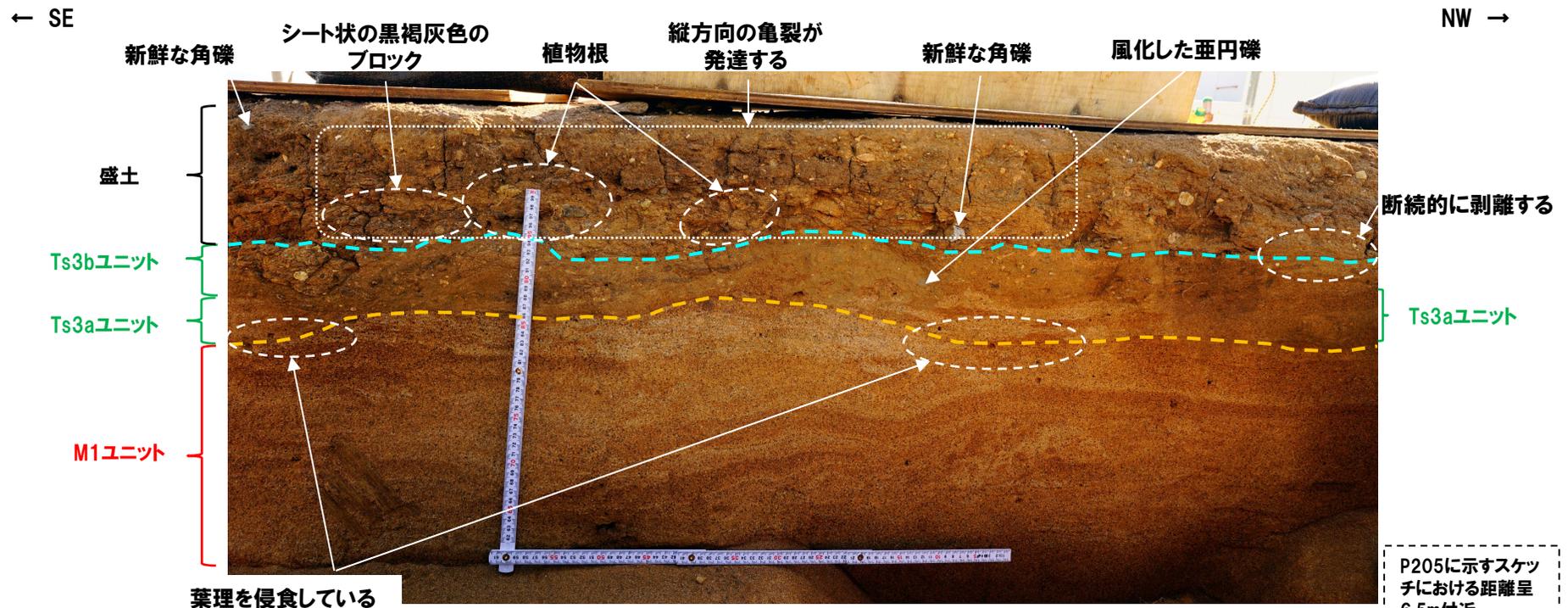


## (1)地層区分及びユニット区分

## ②-2 堆積相観察-露頭観察箇所②(1/2)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細かい堆積構造が認められる細粒～中粒砂からなり、局部的にシルトが認められる。また、基底面は下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- Ts3bユニットは、褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫が認められる。
- 盛土は、暗褐灰～黒褐灰色を呈するシルト混じり礫質砂～礫混じり砂～礫混じりシルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、Ts3ユニットに比べ植物根が多く認められる。また、基底付近にはシート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異によりTs3bユニットとの境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。



拡大写真(観察箇所②位置(解釈線あり))

令和2年6月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

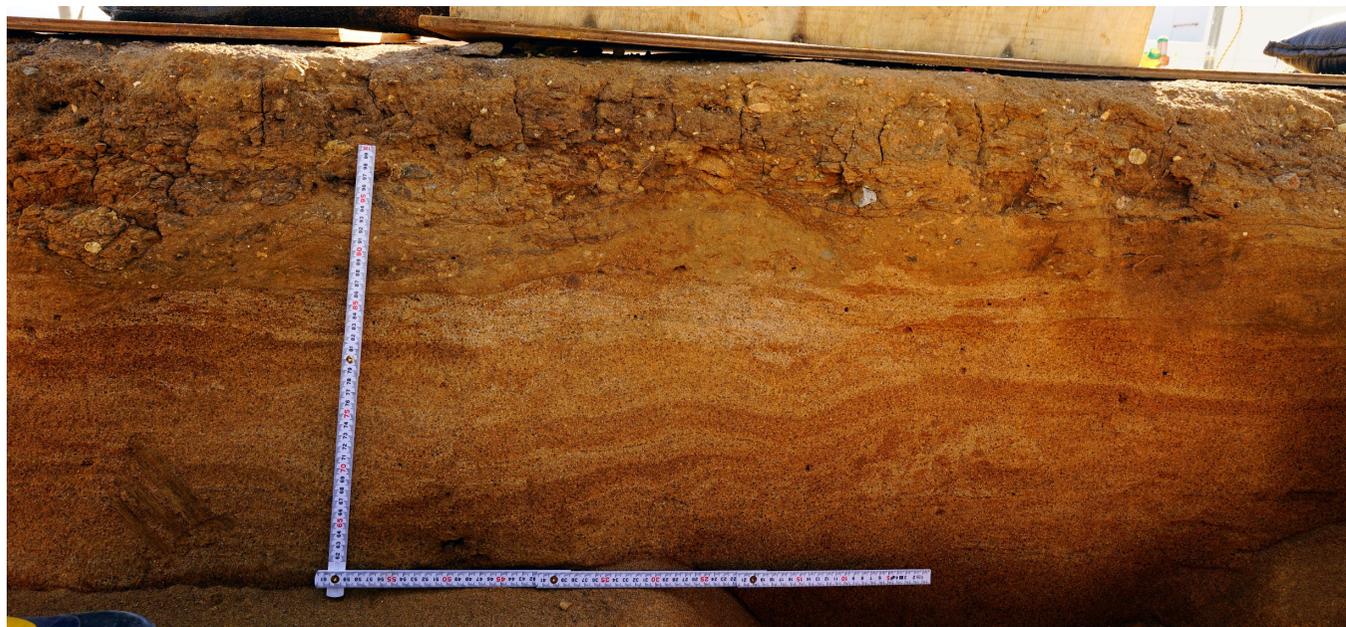
②-2 堆積相観察-露頭観察箇所②(2/2) -

再掲(R2/8/7審査会合)



← SE

NW →



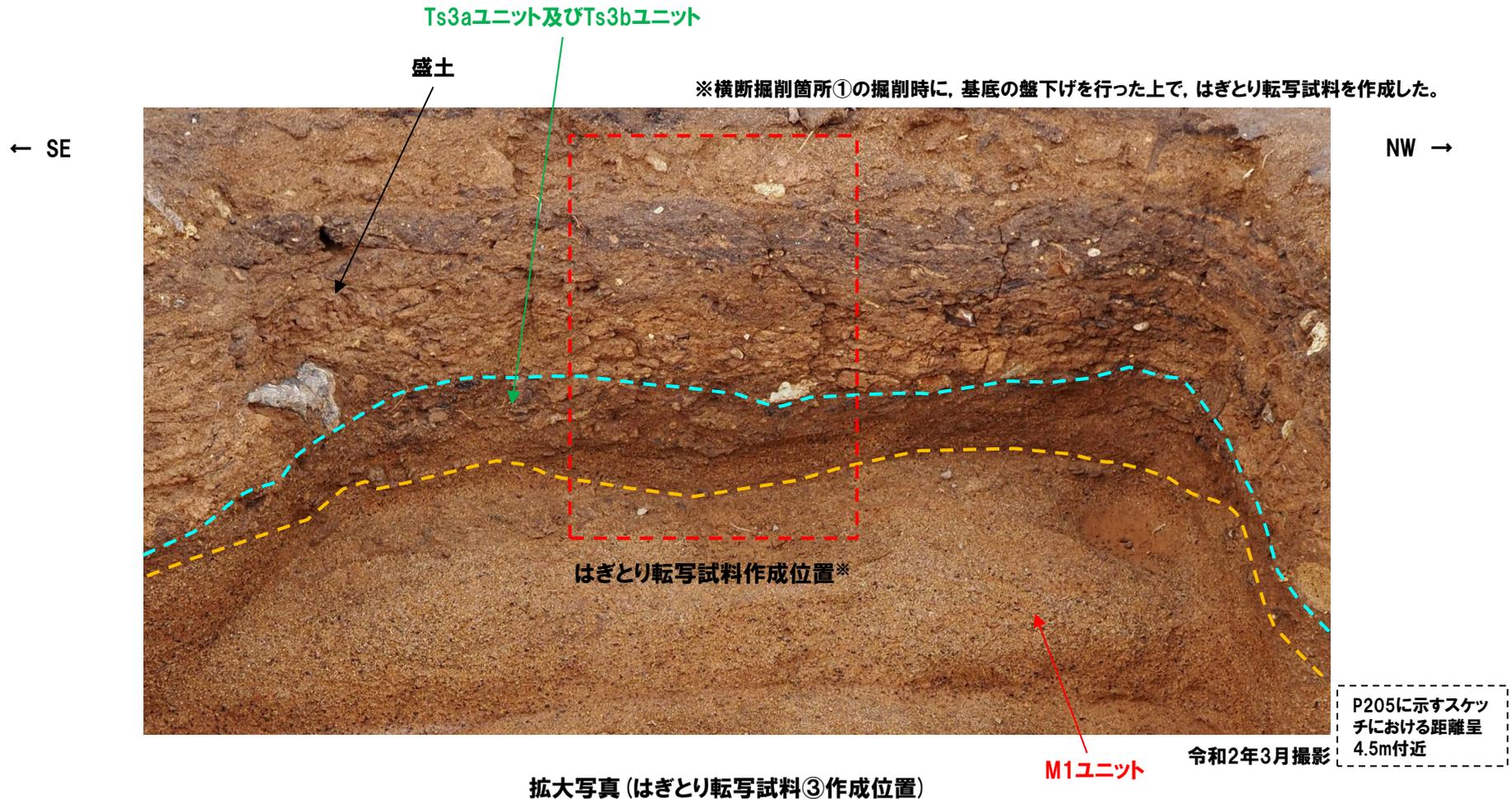
拡大写真(観察箇所②位置(解釈線なし))

令和2年6月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料③(1/3)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)



拡大写真(はぎとり転写試料③作成位置)

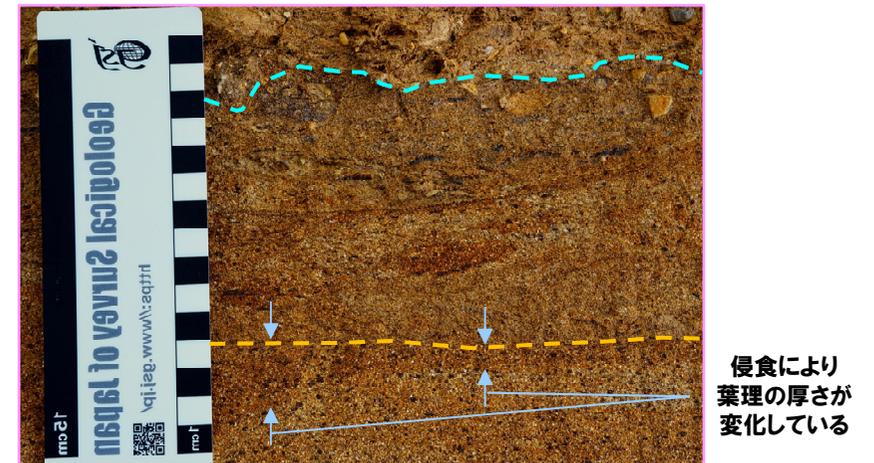
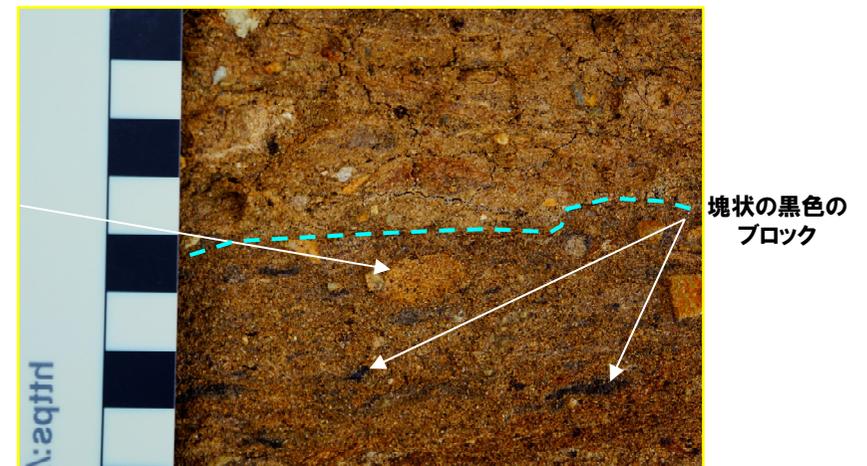
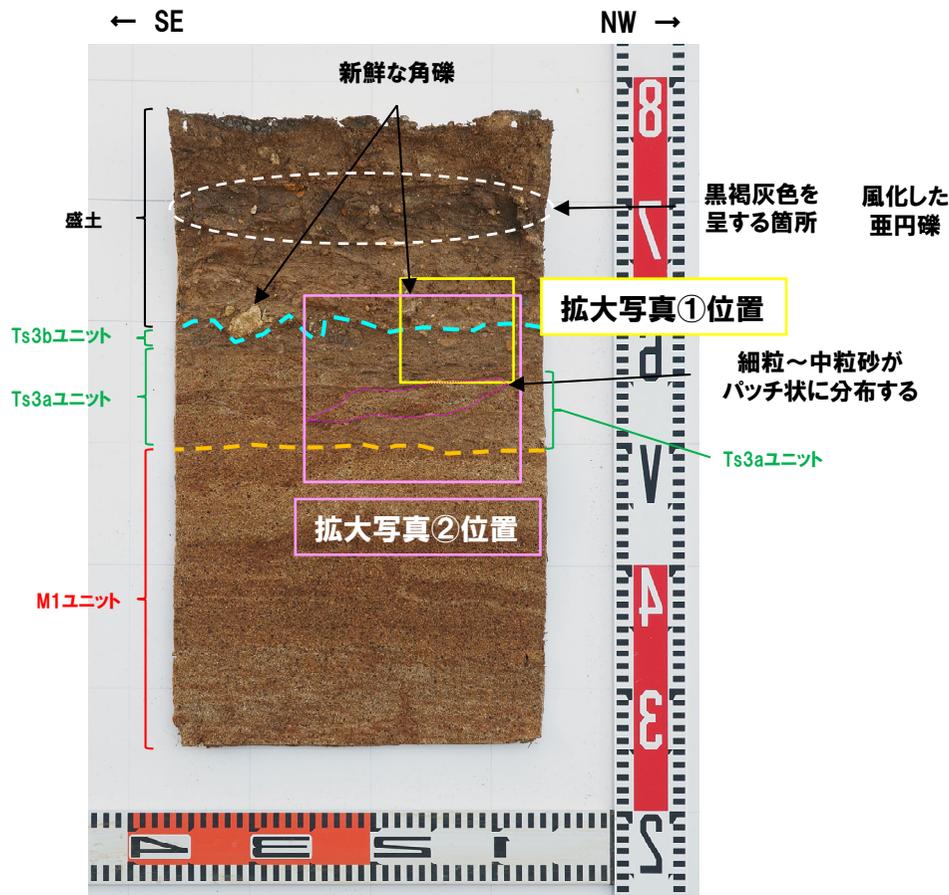
余白

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料③(2/3)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布する。また、下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- Ts3bユニットは、暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、風化した亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は、暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じり砂で、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じり、黒褐灰色を呈する箇所が認められる。



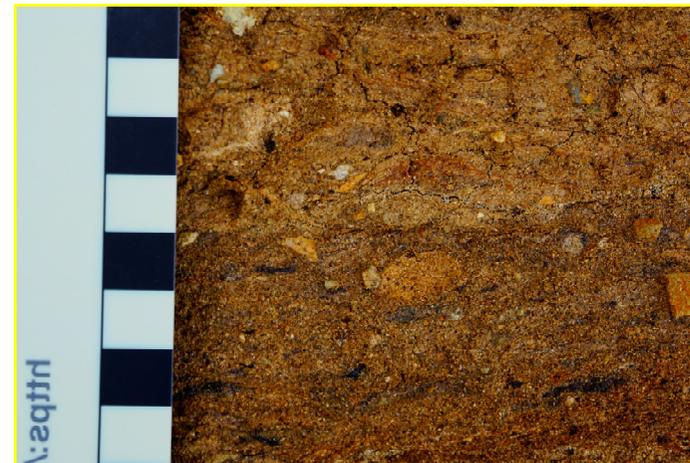
## (1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料③(3/3) -

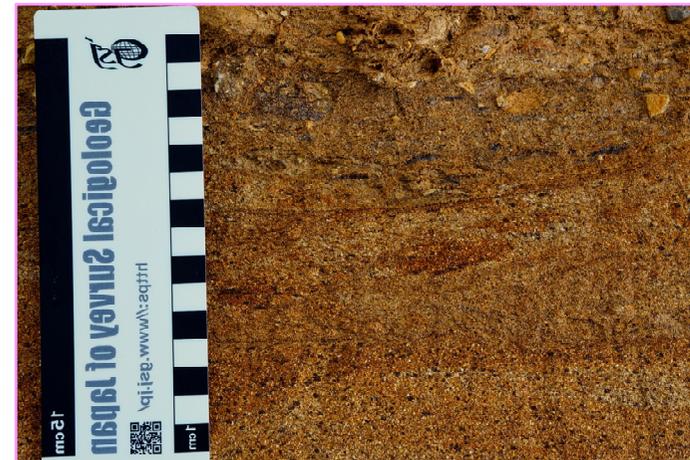
一部修正(R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



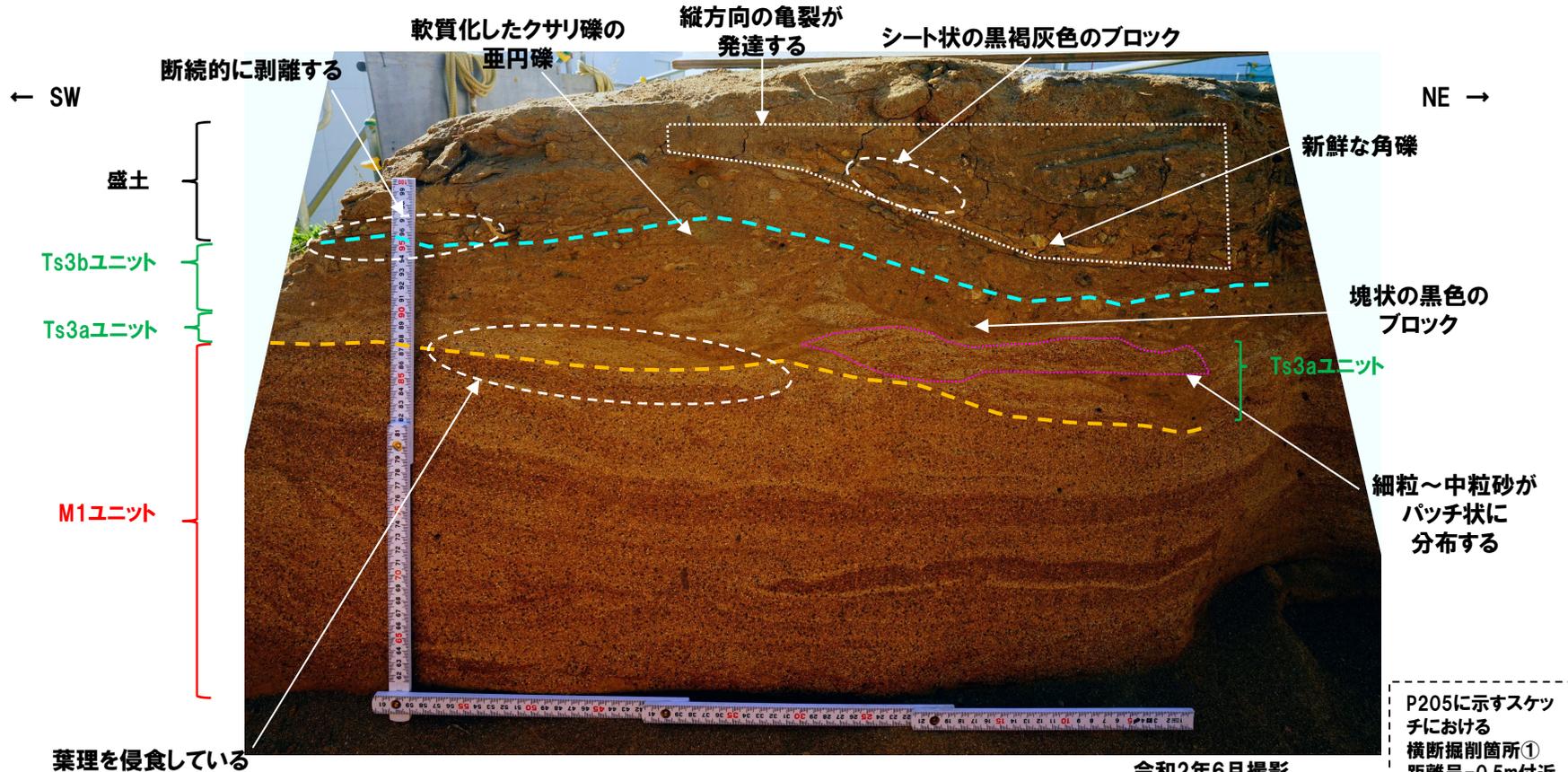
拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-露頭観察箇所③(1/2) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、細粒～中粒砂がパッチ状に分布する。下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- Ts3bユニットは、暗褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂で、軟質化したクサリ礫の亜円礫及び塊状の黒色のブロックが認められる。
- 盛土は、暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト混じり砂～シルト質砂で、層相変化が著しく、不均質な層相を示す。新鮮な角礫が混じる。また、シート状の黒褐灰色のブロックが認められ、縦方向の亀裂が発達し、層相の差異によりTs3bユニットとの境界は明瞭であり、その境界は断続的に剥離する。



P205に示すスケッチにおける横断掘削箇所① 距離呈-0.5m付近

拡大写真(観察箇所③位置(解釈線あり))

令和2年6月撮影

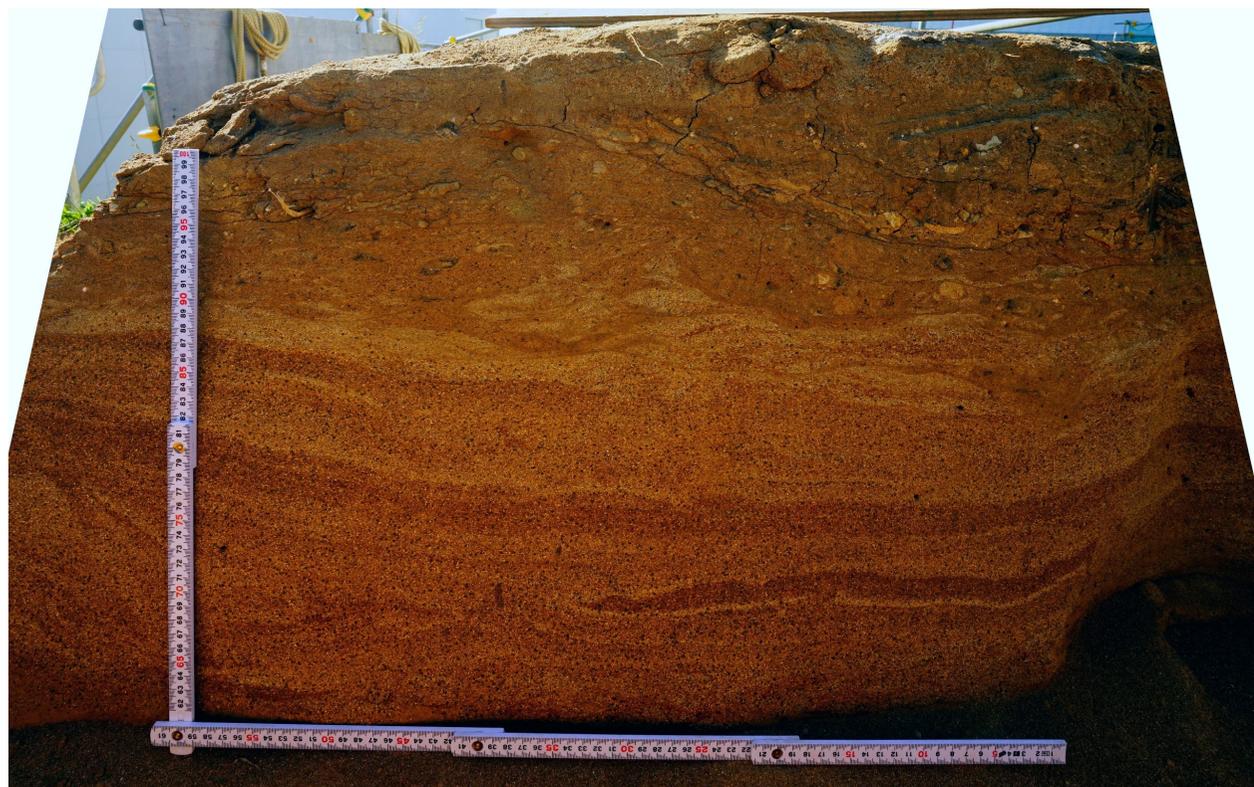
## (1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-露頭観察箇所③(2/2) -

再掲(R2/8/7審査会合)



← SW



NE →

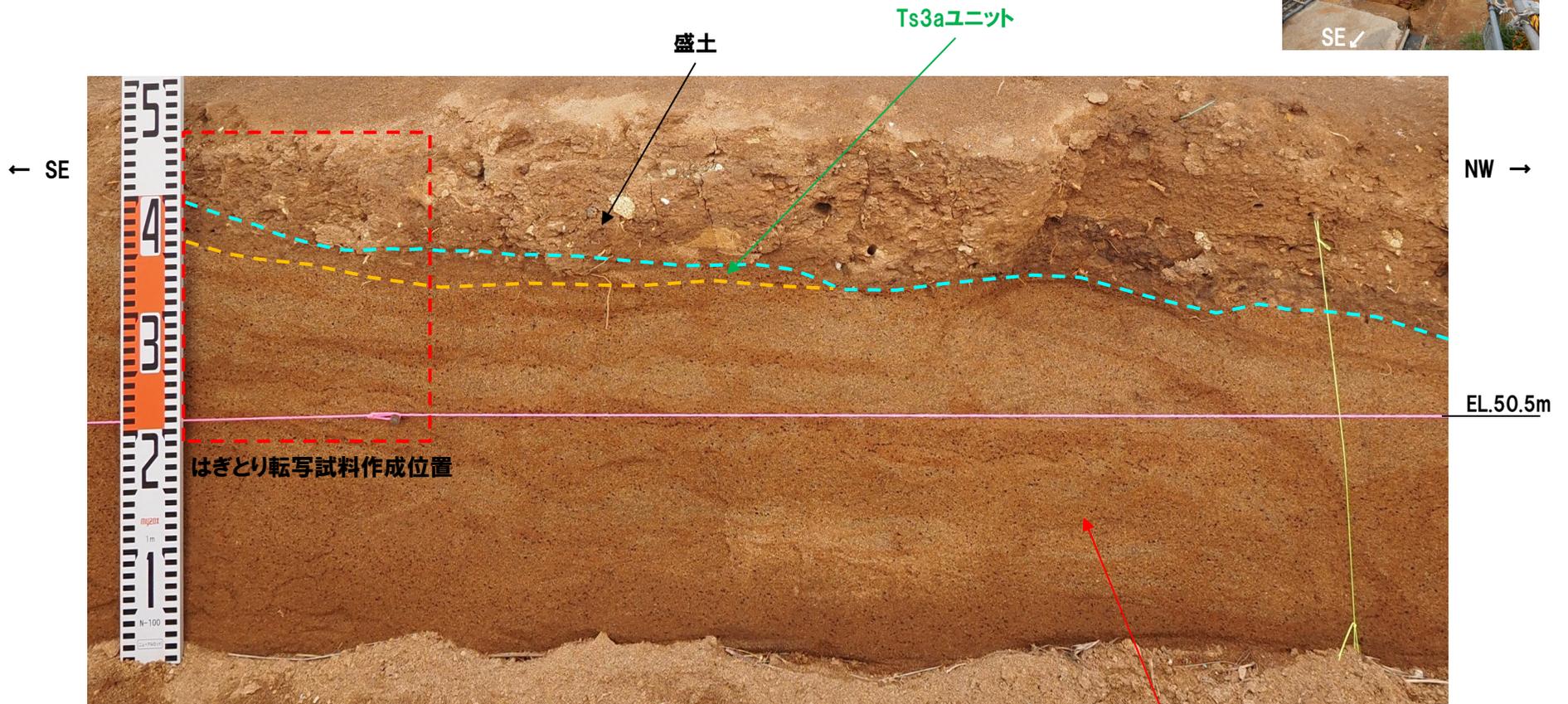
拡大写真(観察箇所③位置(解釈線なし))

令和2年6月撮影

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料④(1/3)-

一部修正 (R2/8/7審査会合)



令和2年3月撮影

P205に示すスケッチにおける距離呈0.5m付近

拡大写真(はぎとり転写試料④作成位置)

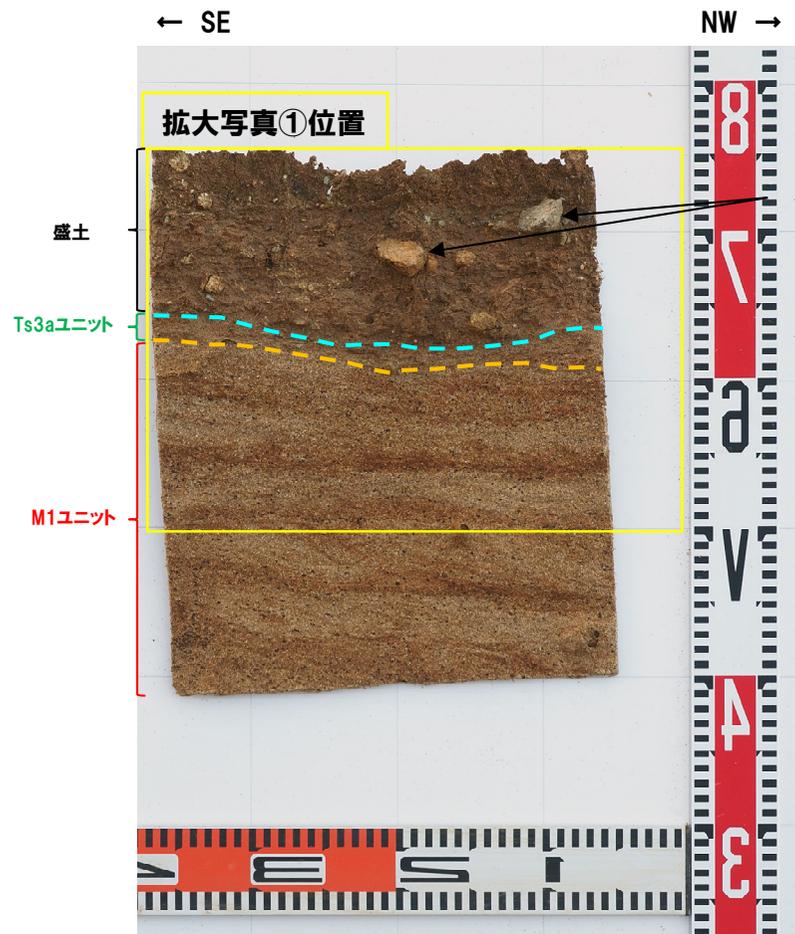
余白

## (1)地層区分及びユニット区分

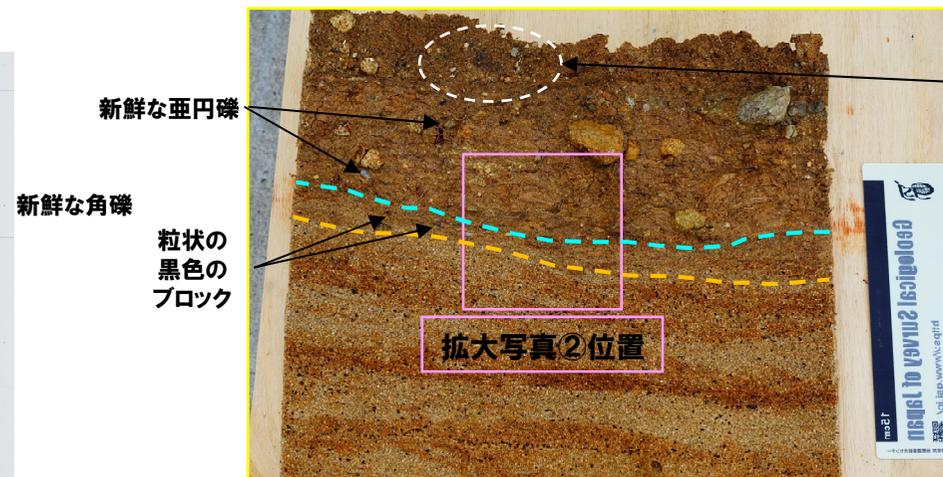
## ②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料④(2/3)-

一部修正(R2/8/7審査会合)

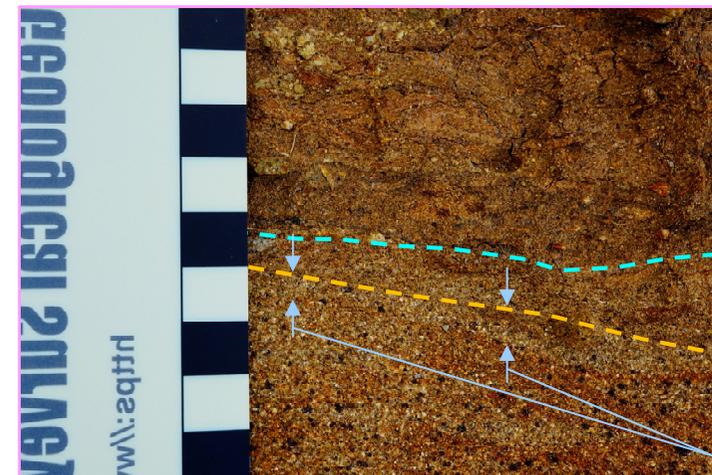
- M1ユニットは、明褐灰～褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰が良い。葉理が認められる。
- Ts3aユニットは、褐灰色を呈するシルト混じり砂で、粒状の黒色のブロックが認められる。また、下位のM1ユニットに認められる葉理を侵食している。
- 盛土は、暗褐灰～黒褐灰色を呈する礫混じりシルト質砂であり、不均質な層相を示す。新鮮な角～亜円礫が混じり、黒褐灰色を呈する箇所が認められる。



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

黒褐灰色を呈する箇所

侵食により  
葉理の厚さが  
変化している

## (1)地層区分及びユニット区分

②-2 堆積相観察-はぎとり転写試料④(3/3) -

一部修正(R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

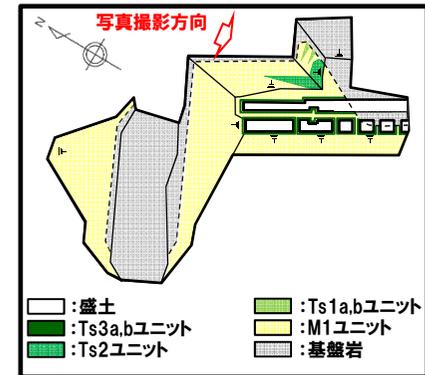
(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts2ユニット 堆積相観察-Ts2ユニットはぎとり転写試料①(1/3) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

○南側壁面の背後法面においては, Ts2ユニットが分布しており, 以下の特徴が認められる。

- ・淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂である
- ・旧海食崖を形成する基盤岩由来の礫が認められる
- ・基底面は下位のM1ユニットを侵食している

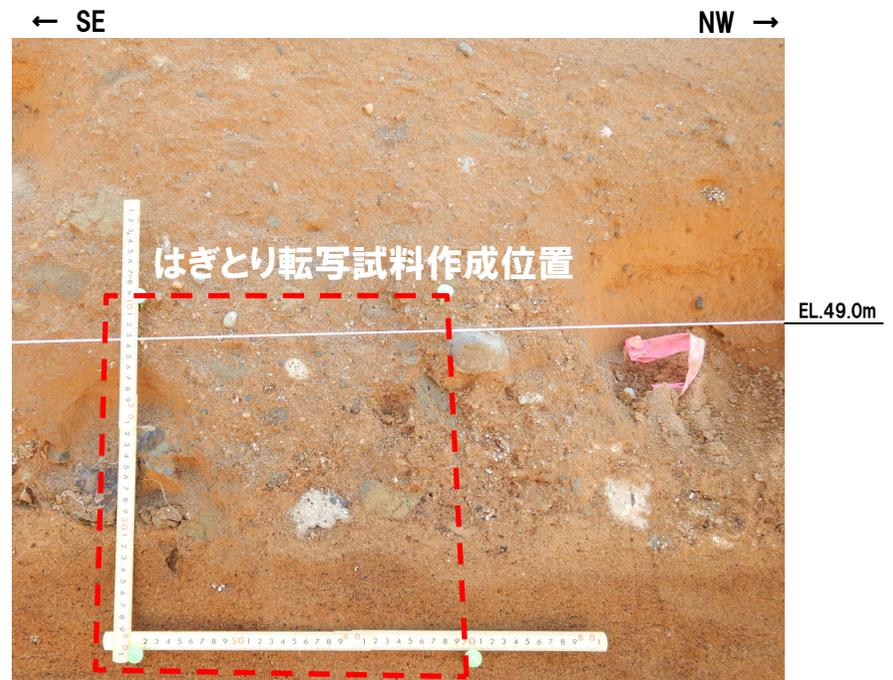


開削調査箇所(南側)平面模式図

基底面は下位の  
M1ユニットを侵食している



壁面写真



Ts2ユニットはぎとり転写試料①作成位置

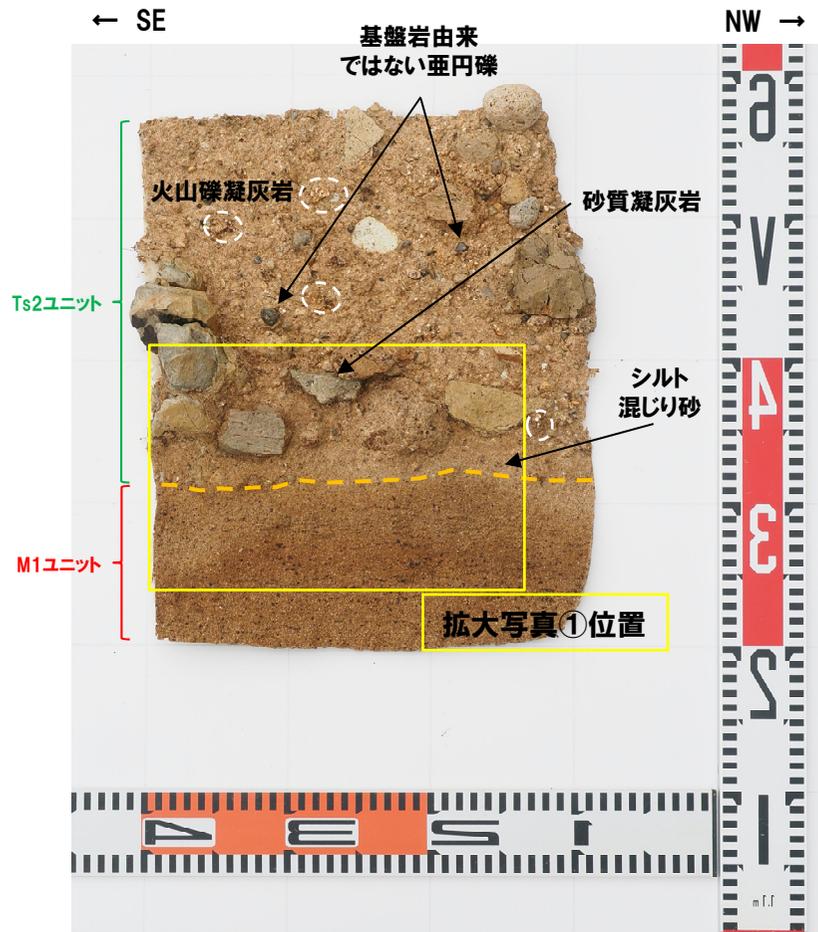
余白

## (1)地層区分及びユニット区分

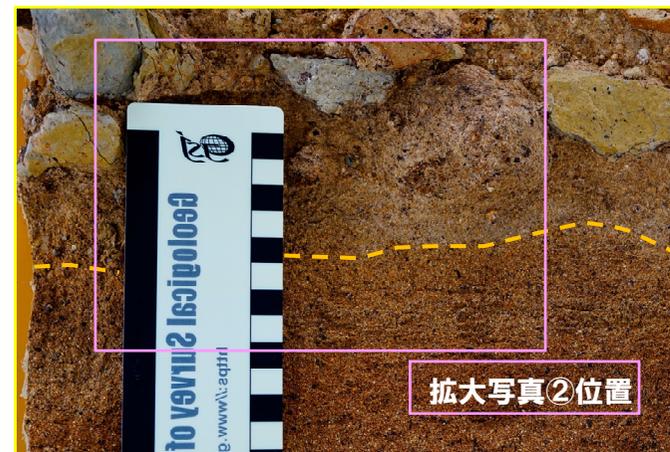
## ②-2 Ts2ユニット 堆積相観察-Ts2ユニットはぎとり転写試料①(2/3) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

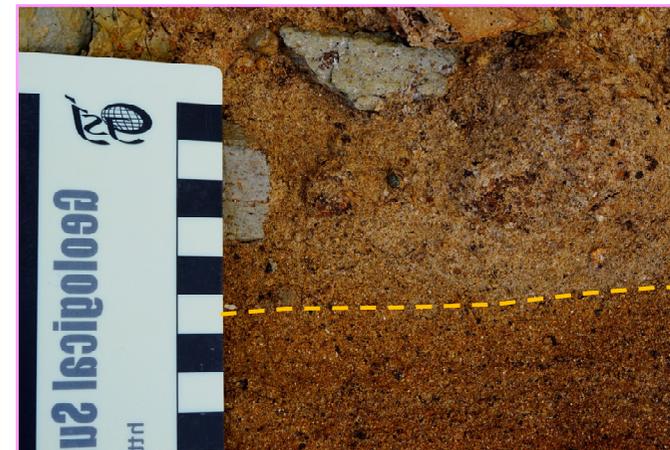
- M1ユニットは、明褐灰色を呈する砂で、細粒～中粒砂からなり、淘汰がやや良い。
- Ts2ユニットは、淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂で、基底面は下位のM1ユニットを侵食している。
- Ts2ユニットの基質は、淘汰が悪いシルト混じり細粒砂であり、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来の亜角礫(約30mm以下)及び砂質凝灰岩由来の亜角礫(約30～50mm主体)が認められる。また、珪質岩等の基盤岩由来ではない亜円礫をわずかに含む。
- なお、Ts2ユニット基底部の層相は、シルト混じり砂である。



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

(1)地層区分及びユニット区分

②-2 Ts2ユニット 堆積相観察-Ts2ユニットはぎとり転写試料①(3/3) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料写真(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

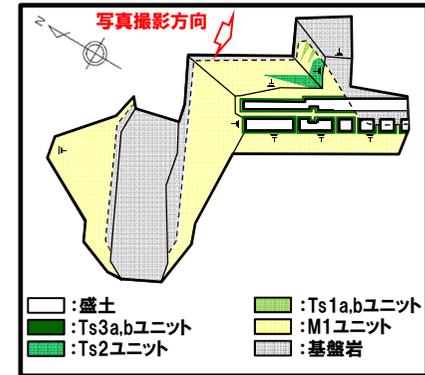
### (1)地層区分及びユニット区分

#### ②-2 Ts2ユニット 堆積相観察-Ts2ユニットはぎとり転写試料②(1/3) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

○南側壁面の背後法面においては, Ts2ユニットが分布しており, 以下の特徴が認められる。

- ・淡褐灰色を呈する礫質シルト混じり砂である
- ・旧海食崖を形成する基盤岩由来の礫が認められる
- ・基底面は下位のM1ユニットを侵食している

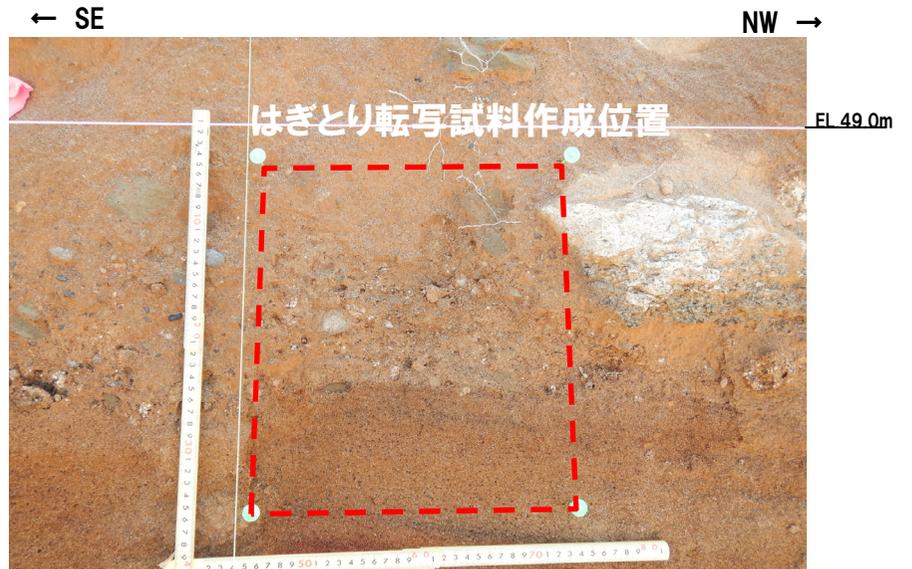


開削調査箇所(南側)平面模式図

基底面は下位の  
M1ユニットを侵食している



壁面写真



Ts2ユニットはぎとり転写試料②作成位置